

税務関連書類の 作成業務等をRPAで自動化。 職員のストレスも軽減し、 担当件数も3倍超に増加。



組織の概要

税理士法人Fは、小規模事業体に特化した監査サービスのほか、会計・税務分野において高品質なサービスを提供しています。特に、特殊な団体における税務・会計に関する知見を有し、多様化する課題やニーズを先読みした専門的なサービスを提供しています。

課題 契約数の増加に伴う業務量の増大と人手不足が深刻に

2015年ごろから業務量が急激に増えた税理士法人Fでは、職員を増やしたくても新規採用が難しく、業務効率化が経営課題になっていました。こうした状況から抜け出すために最初に取り組んだのが、業務内容の見える化です。会計事務所向けのグループウェアを導入し、顧客データベース、業務マニュアル、進捗管理表などを整備するとともに、属人的な業務内容の標準化・マニュアル化も進めました。しかし、人手による作業を続ける限り業務負荷を大きく軽減するまでには至りません。そこで、標準化・マニュアル化した業務のうち、定型的・機械的な業務を自動化することを検討しました。

ソリューション 人手不足を解消する抜本的な切り札として、RPAの導入を決断

自動化にあたっては、まずExcelのマクロでプログラムを組むことを検討しましたが、Excelのマクロは容易に開発できるものではなく、時間やコストもかかるために断念。次の一手を考えていたときに、ASIMOV ROBOTICS (アシモフ・ロボティクス) 社から提案されたのがRPAでした。

RPAは会計事務所の業務を効率化するツールとして徐々に使われ始めており、情報収集を行っていた同社では、すぐにRPAの導入を決定。RPAツールには、ASIMOV社と業務提携関係にあるAutomation Anywhereの製品を導入しました。選定の理由は、会計業務を熟知しているASIMOV社からの提案ということもありましたが、同社でも他のツールと機能やコストを比較検討したうえで、自社の業務を自動化するにはAutomation Anywhereが最適だと判断したからです。

メリット

3倍超

職員一人の担当件数

1/5-6

コスト削減効果

約 1,400時間

年間業務削減時間

自動化されたプロセス

- ・メール文案の作成
- ・各種書類作成
- ・ソフトウェア間のデータ取込
- ・各種書類印刷
- ・税務署からのメッセージ確認・印刷

業界
税理士事務所

「作業時間の削減によって職員が能力を発揮すべき専門的な業務へシフトし、職員のストレス軽減できたことが、RPA導入の最大の効果だと感じています」



— 税理士法人F
代表社員
公認会計士・税理士
津村 美昭氏

詳細 定型的・機械的な業務をRPAで自動化

Automation Anywhereを導入することにした当社では、定型的・機械的な入力作業を自動化することが得意というRPAの特性を考え、職員の判断が少なく実行できる月1回以上のルーティン業務をRPA化の検討対象としてピックアップ。こうして、「メール文案の作成(2プロセス)」「各種書類作成(2プロセス)」「ソフトウェア間のデータ取込(1プロセス)」「各種書類印刷(1プロセス)」「税務署からのメッセージ確認・印刷(1プロセス)」の業務を段階的にRPA化することを決定しました。

中でもメインと言えるのが「各種書類作成」の業務です。税務申告に関連する各種書類の作成のうち、入力・転記作業などの機械的・定型的な業務をRPA化の対象としました。複数のソフトウェアにまたがる複雑な業務のうち定型的・機械的な転記業務やソフトウェア上の更新や取込業務をRPAで自動化することで、大きな負荷軽減につながっています。

結果 職員のストレスも軽減し、担当件数も3倍超に

RPAによる自動化により、さまざまな効果が得られています。業務削減効果はトータルで年間約1,400時間にもものぼり、コスト削減効果は従来に比べて5～6分の1に達し、職員一人の担当件数も、従来の3倍超になりました。こうした定量的な効果だけでなく、作業時間の削減によって職員が能力を発揮すべき専門的な業務へシフトできたことも大きな効果です。また、ソフトウェアの読み込みのような作業の待ち時間が削減され、職員のストレス軽減や労働環境改善にもつながっています。

また、RPAによる業務の自動化を推進していたおかげで、2020年3月頃から拡大した新型コロナウイルスの影響により在宅勤務の要請があった際も、職員がスムーズに在宅勤務に移行することができました。

今後の展望 コストメリットを見極めながら他の業務にも適用へ

税理士法人Fでは、今回RPAを導入した業務の効果をさらに検証したのち、他の業務にも適用の幅を広げていく考えです。現在はRPAのBot開発をASIMOV社に担当してもらっていますが、Botを開発して導入するまでには、業務を見直して改善すべきかどうかコストメリットを見極めるといったマンパワーが求められるため、まず何をやりたいのかという検討を十分に重ね、ターゲットを絞り込んでから次のRPA化に取り組んでいく計画です。

■販売パートナー
ASIMOV ROBOTICS株式会社
(アシモフ ロボティクス)
<https://asimov-robo.com>



Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>
 @AutomationAnwJP  www.facebook.com/AutomationAnywhwJP  contact_japan@automationanywhere.com

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。

2020年5月バージョン1

「リモートでBotを起動・運用できる仕組みを整えたことで、全社員が通勤しなくても、在宅で通常業務を行うことができるようになりました。リモートワークとRPAは相性がいいと思います。担当者は出勤しなくても、サーバーの作業で事務所のロボットが動いて仕事してくれています」

— 税理士法人F
代表社員
公認会計士・税理士
津村 美昭氏

